

# 隠さなければ信仰や命が守れない！そのなかで！

## 茨木市立キリシタン遺物史料館

### 千提寺集落

8月1日にキリシタン遺物史料館を訪ねる機会を得た。大阪万博の会場となった茨木市の中心、JR茨木駅から北部の山間部へ向かいバスで30分ばかり走り、千提寺口バス停で下車し、そこから山道を10分余り歩くと千提寺という集落に着いた。

この静かで物音ひとつしないような山深い里の一角にキリシタン遺物史料館があった。ここに至るまでの地形の変化などを見ながら、現在の自動車社会ではおよびもつかないかつての交通状況などを想像し、まさに隠れキリシタンが潜んで生活するのに恰好の地であったことを思わせた。

### キリスト教徒の受難

ここを中心とした地は、かつてキリシタン大名で有名な高槻

城主の高山右近との関わりで、キリスト教を信仰する人たちが数多く生まれた。

しかし、豊臣秀吉は天正15(1587)年、キリスト教の布教と信仰を厳禁。さらに慶長18(1613)年には、徳川家康によるキリシタン禁教令が発布された。

高山右近などはルソン(フィリピン)のマニラに追放され、信者たちは縁者なども含めて、死罪、流罪、一家一類断絶の厳科に処せられた。さらに、キリスト教に関係深い物品などは消滅させられた。

この禁教政策によって、このあたりの信者たちは隠れて信仰を続けることとなり、江戸時代を通じて表面上は仏教徒として生活してきた。現在でもこの信仰状況は、曹洞宗、浄土宗、浄土真宗、日蓮宗だそうだ。厳しい探索から逃れ、隠れて信仰を守り続けるためになされた手

### 命がけの信仰

こうした隠れキリシタンたちの残した貴重な遺物が、キリシタン遺物史料館に数多く展示されていた。そのなかには私たちが中学校や高校の社会科歴史の教科書で、参考資料として見かける「聖フランシスコ・ザビエルの画像」があった。画像は、この千提寺集落の東さんという方の母屋の屋根裏の梁にくくりつけられていた「あけずの櫃」の中から、大正9(1920)年に発見されたのだという。史料館の職員さんの説明を受け、参加者から驚嘆の声があがった。

段であつたらう。

### キリシタンの遺物

「徹底して隠すこと。隠さなければ命や信仰が守られなかった」という説明を聞き、人が自分たちの思いを守りながら、人の尊厳を大切にし、また尊重するということが、いかに命懸けの行為であつたか気づかされた。研修であつた。

みんなの人権セミナーのご案内！

テーマ 子どもとメディア

の関わり方

ネット社会と人権

講師 渡部万里子さん(鳥取県)

ケータイ・インターネット教育推進員)

とき 9月11日(金)

19時30分より21時まで

ところ 役場大山支所(山陰自動車道大山インターから1分)

☎0859-53-3311